大津・SDGsくるくるチャリティプロジェクト2019
報告書

プロジェクトの成果

＜四者協働の推進＞

28 の企業と 31 の市民活動団体及び大学、大津市また滋賀県、関西SDGsプラットフォーム、各種メディア等から、ご協賛やご協力をいただき、市民、行政、企業、大学の連携でSDGs 推進に向けた事業を展開しました。

＜SDGs・地域貢献に対する啓発・人材育成・交流活動の推進＞

一年を通した事業で、およそ4500人の市民がSDGsのイベントやチャリティに参加しました。

＜コミュニティファンドと寄付支援の体制づくり＞

四者協働により収益事業を運営し、「貧困家庭の子どもや貧困世帯を支援」する2団体への寄付目標金額20万円を達成し、市民主体のファンドづくりのステップとしました。

大津市市民活動センター

ご挨拶

大津市長　　佐藤　健司

この度、大津市市民活動センターにおいて、令和元年８月から令和２年３月の長期間にわたり、市民、行政、企業、大学の四者が協働して、「大津・SDGsくるくるチャリティプロジェクト2019」に取組まれましたことに、敬意を表します。

SDGsは、持続可能な世界を実現するために掲げられた国際的な目標です。本市の取組が世界とつながることで、本市の各種施策が充実するとともに、行政や市民のグローバルな意識が高まることを期待して、本市においてもSDGsを推進しています。

現在、世界では新型コロナウィルス感染症が拡がっており、市民の皆様一人ひとりが感染拡大防止のための新しい生活様式に取り組んでいただいているところであります。また、様々なイベントや活動についても感染の拡大を抑えるため、自粛されたり縮小しての開催となるなど、市民の皆様の日常生活にも大きな影響が出ているところです。

しかしこのようなときだからこそ、人と人とのつながりの大切さを再認識するとともに、今回のプロジェクトを通じて培ってきたネットワークなどを今後の活動に活かしていただくことで、SDGsの基本理念である「誰一人取り残さない」社会の実現や本市の協働のまちづくりの進展につながることを期待しております。

大津市市民部長　　内田　一成

本市においては、社会を取り巻く環境が多様化、複雑化する中で、市民・市民団体、事業者及び市の三者が力を合わせて、誰もが愛着と誇りをもち、住み続けたくなる大津の実現を目指して、平成２３年４月に「大津市『「結（ゆい）の湖都』協働のまちづくり推進条例」を施行し、三者協働によるまちづくりを推進してまいりました。

三者協働によるまちづくりを進めるためには、多様な主体が課題を共有し、同じ目標に向かって取り組むことが何よりも重要になります。

こうした中、多様な主体がSDGsにおけるそれぞれの活動の位置づけを意識することは、課題を共有し、同じ目標に取り組むための連携が促進されるなど、SDGsの推進が、協働によるまちづくりの推進にも繋がるものと考えております。

この度の「大津・SDGsくるくるチャリティプロジェクト2019」におかれましても、多くの市民団体、事業者及び大学の参加・協賛を得ながら、様々な取り組みを実施されたことは、本市における今後の協働によるまちづくりを推進する大きなきっかけとなるものと考えております。

今後も、様々な主体が連携・交流することで、より効果的で持続的なまちづくりが展開されることをご祈念申し上げます。

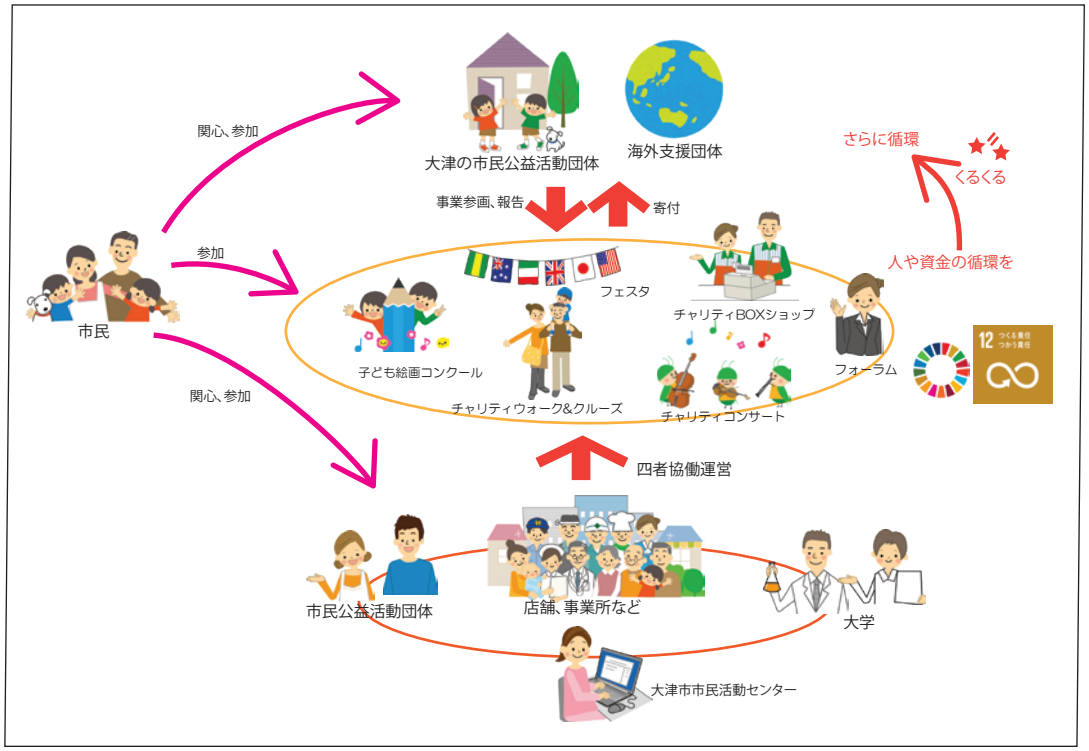
プロジェクトの目的と概要

本事業は、SDGsをテーマに市民、行政、企業、大学の四者協働を進めるもので、2018年度に続き２年目の取り組みです。2018年度の事業には多くの市民の参加を得て、協賛企業や参加団体からも好評を得るとともに、「来年度はもっと具体的な取り組みを」と言った声が寄せられました。

そこで2019年度の取り組みは、①新たな取り組みとして四者協働で収益事業に取り組み、市民公益活動への寄付とすること、②SDGsを引き続きテーマとして四者協働を進めること、の２つを柱としました。

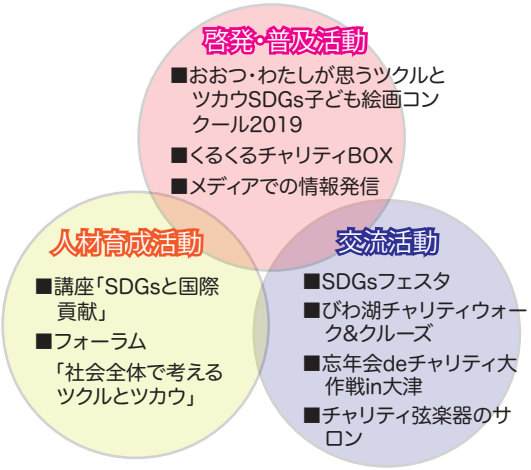
1.貧困家庭の子どもや貧困世帯を支援する団体へのチャリティ

SDGsは2015年9月に国際社会が2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するための重要な指針として採択された、17のゴールからなる持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）です。本プロジェクトでは、SDGsのスローガン「誰も取り残さない」を重視し、2030年に大人になり社会を担う子どもや貧困世帯の支援の一助として、四者協働のチャリティ先を公募、審査して、「大津夜まわりの会」と「日本国際ボランティアセンター」の２団体に決定しました。



2.SDGsの推進
～つくる責任・つかう責任～

SDGsは17のゴールからなります。2018年度には「SDGsとは？」を四者協働で広く伝える活動に取り組みました。2019年度はより具体的なテーマとして「つくる責任・つかう責任」を選び、「啓発・普及活動」「人材育成活動」「交流活動」の３つに取り組みました。



1.チャリティが目標金額に達しました

2019年8月より四者協働により、市民が生活を楽しみながらチャリティを行えるようなさまざまなイベントなどを開催してきました。目標金額（2団体合計）の20万円を超える寄付金が集まり、以下2団体に寄付できました。

1-1.特定非営利活動法人 大津夜まわりの会 「2020夏休みこどもひまわりの家事業」

大津夜まわりの会では、生活困窮者自立支援法に基づく自立相談支援、一時生活支援事業を大津市から受託し、住まいの問題で行き詰った人らの緊急一時宿泊所を運営しています。また彼らの自立・再生に向け、福祉、医療、教育、法律関係者らと連携して支援しています。そのほか、独自の講座事業、越冬支援事業を実施しています。

このチャリティで支援する「夏休みこどもひまわりの家」事業では、「子どもの貧困」が社会問題化するなか、一人親家庭や共働き家庭などで夏休みの昼間、子どもだけですごしたり、昼食を作ってくれる人がいない児童に、勉強、昼食、さまざまな経験・体験の場を提供し、友だちづくり、思い出づくりを応援して、貧困の連鎖の防止の一助とします。

来年度からの活用に向けて　～「大津夜まわりの会」より

私たち「大津夜まわりの会」が今夏開催する「2020夏休みこどもひまわりの家」事業に対し、ご寄付をはじめいろんな形で応援していただいている皆様方に心からお礼を申し上げます。

「夏休みこどもひまわりの家」は、支援が必要な子どもたちに勉強や遊びの場にとどまらず、夢や目標を見つける機会を提供することが狙いです。開催日は夏休み中の8日間限りですが、午前10時から午後4時まで、学習や昼食、そして午後からは専門の講師を迎え、美術工作、国際交流、文化活動、レクレーションといった体験や外部施設の見学など、学校生活とは一味違う活動をします。児童たちを支えるのが高校生や大学生、専門学校生らのボランティアで、先生役に加え「憧れの先輩」「良きお兄さん、お姉さん」役を果たしてくれます。

保護者からは「子供たちだけで留守番をさせるので、とてもありがたかった」「お弁当の準備をしなくてすみ、助かりました」にはじまり「私が帰宅すると、いつも“ひまわり”のことを話してくれます」「ボランティア学生さんとの話が楽しかったそうです」等々の声が寄せられます。

こうした活動によって、家庭の事情にかかわらず、児童みんながひと回り成長してくれる夏休みとなるよう、スタッフ一同、一生懸命頑張ります。

1-2.特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター
「パレスチナ・ガザ地区 子どもの栄養失調予防・改善事業」

パレスチナのガザ地区は、2007年以降イスラエルによる封鎖で、人や物資の移動が厳しい制限を受けています。この11年で4度の軍事攻撃を受け、経済は壊滅的な状況です。失業率は2018年現在で54%、貧困率は53%に上ります。国連機関等が食料配給を行っていますが、十分ではない上、カロリー重視のため微量栄養素が不足しており、特に子どもが栄養失調に陥る、貧血を患う等の影響を受けています。恒常的な栄養不良は発育・発達にも悪影響を及ぼしかねません。

このチャリティで支援する「子どもの栄養失調予防・改善事業」では、ガザ地区中部の4地域で、現地NGO「人間の大地（AEI）」スタッフおよび地域の40名の女性ボランティアと共に、住民への栄養・保健教育、子どもの検診・発達チェックを実施します。研修で子どもの健康アドバイザーとして育成されたボランティアが、地域の3歳以下の子どもとその家族や妊産婦を訪ね、個別カウンセリングや栄養講習、調理実習を行います。

来年度からの活用に向けて　～「日本国際ボランティアセンター」より

JVCはパレスチナのガザ地区で子どもの健やかな成長を守る仕組み作りを行っています。現地の女性ボランティアが、NGO「人間の大地（AEI）」の保健師とともに、家庭訪問などを通して子どもの健診とアセスメント、保護者へのアドバイスや、栄養講習、発達に必要なおもちゃの手作り講習などを実施しています。ボランティアからは、「ボランティアという形ではあるけれども、人の役に立ちたいという想いを実現できる機会に恵まれてとても嬉しい。このプロジェクトに参加したことで知識も増えたし、チームワークも学ぶことができた」「頼りにされることが嬉しい」という声が聞かれています。保健師からの適切なアドバイスと指導により、ボランティアは徐々に独り立ちしています。

昨年10月にパレスチナの現状とこの活動について知ってもらう講座を大津で行いました。JVCの活動として、“伝える”ことにも重きを置いているため、色々な方に知ってもらう貴重な機会となりました。この度いただくご支援は、引き続き主にボランティア育成の研修費用に使わせていただきます。

2.四者協働でSDGsに向けて取り組みました

2-1.SDGsを伝える・啓発活動

①SDGs子ども絵画コンクール2019
（2019年8月～10月）

市内の小学校3年から中学校3年に「わたしが思うツクルとツカウ」をテーマにして開催し、38展の応募があり、大賞（市長賞）1点、特別賞（企業賞）9点を選定しました。

②チャリティBOX SHOP（2019年10月～2020年3月）

市内の市民公益活動団体が生産・取り扱いする生産物を市内の事業所と大津市市民活動センターで販売しました。市民公益活動団体の収益となることに加え、売り上げの5％をチャリティとしました。

③ポスター展（2020年10月～11月）

「SDGs子ども絵画コンクール2019」の全ての応募作品と市民公益活動団体の活動PRポスターをイオンスタイル大津京と滋賀銀行大津駅前支店、大津市市民活動センターで展示を行いました。

④メディアでの情報発信（2019年9月～2020年1月）

各イベントやフォーラムについては、行政や新聞各社等の後援をいただき、広報に努めました。またコミュニティラジオ（FMおおつ）で9月から1月にかけて月1度、協賛企業や市民活動団体をゲストに招き、SDGsに関する取り組み等についてアピールを行いました。

SDGs子ども絵画コンクール大賞作品「魚を食べたい」

私達人間と海の生き物達みんなを含めた全ての生き物の海です。みんなの食の海です。

2019年度のテーマは目標12
持続可能な消費と生産のパターンを確保する

入賞した子どもたちの授賞式

事業所のミーティング室にあるBOX SHOP

子どもたちが描いた絵に見入る人々

FMおおつのスタジオで楽しく収録

2-2. SDGsを育む・人材育成活動

①講座「SDGsと国際貢献」(2019年10月6日)

今年度のチャリティ先でもある日本国際ボランティアセンター(JVC)の大澤氏を講師に迎え、JVCの支援活動とSDGsの視点についてお話しいただきました。パネルディスカッションでは、パレスチナの状況についての質疑応答や参加者のパレスチナとの関わりについて議論が交わされました。

日本国際ボランティアセンターの大澤氏がパレスチナの歴史やガザの現状ついて説明(上)

②フォーラム「社会全体で考えるツクルとツカウ」(2019年10月7日)

第一部の基調講演では、グローバル企業としてTHE BODY SHOPの成瀬氏、地元企業として叶 壽寿庵の池田氏をゲストスピーカーに招聘し、それぞれの企業の取り組みや現在の課題など、またSDGsとの関わりについてお話しいただいた。第二部では、パネラーとして滋賀グリーン活動ネットワークの辻氏、おおつ環境フォーラムの吉本氏より、それぞれの団体の取り組みの現状をお話いただいた後、成安造形大学の学生3名の地域とのコラボ事業を紹介しました。そして今後のSDGsの方向性や市民社会に求められるものについて意見を交わしました。

最後に本プロジェクトのチャリティ先である大津夜まわりの会と日本国際ボランティアセンターから挨拶をいただきました。

「企業には社会を変える力がある」がミッションのTHE BODY SHOPの成瀬氏(左上)と大津の風土に根ざした和菓子を作り続ける叶 匠壽庵の池田氏(右下)

参加者の声など

SDGsと国際貢献

- パレスチナで起きている問題を本などで読んでも難しくてあまり良く分からないし、テレビでもなんで攻撃されているのか分からなかったけれど今回の説明画像などで分かりやすかった。
- パレスチナの弱い立場に置かれている人達を支援されているところに敬意を感じます。持続可能な国際貢献への関わりを是非続けていってもらえたらと思います。

社会全体で考えるツクルとツカウ

- ボディショップと叶企業、共に地域や自然を共有，共生しながら持続可能な社会に貢献されている事に感動しました。
- グリーン購入の認知度が滋賀県でとても高いことを初めて知りました。購入者の意識を変えることが大事だということを学びました。
- チャリティプロジェクトの寄付先団体のお話を聞けて、プロジェクト全体の有意義さ、面白さを感じることが出来た。

滋賀グリーン活動ネットワークやおおつ環境フォーラム、成安造形大学の学生を交えたパネルディスカッション

2-3.SDGsをすすめる・交流活動

①SDGsフェスタ「シゲンくるくる・福めぐる」
（2019年11月10日）

市民公益活動団体がステージや飲食・体験ブース、クイズラリーなどを提供し、約4000人の来場者がありました。体操教室や科学実験などの体験コーナーでは親子連れで賑わいました。ステージは可愛らしい保育園児の和太鼓や勇壮な琉球太鼓などで盛り上がり、多国籍・無国籍のフードコーナーも人気でした。「おおつ・SDGs子ども絵画コンクール2019」の表彰式も行われました。

賑わったステージとフードコーナー（左上）と太鼓の体験を楽しむ子どもたち（右下）

②びわ湖チャリティウォーク&クルーズ
（2019年11月10日）

琵琶湖汽船株式会社の協力を得て、京阪「びわ湖浜大津」駅からにおの浜観光港までウォーキング、その後ミシガンに乗船して大津港までクルーズするイベントを開催しました。200人の定員に達し、ウォーキングのレクチャーの後、快晴の湖岸を多くの親子がウォークと乗船を楽しみました。

快晴の湖畔でクイズラリーを楽しむ親子連れ（左上）とミシガン（右下）

③忘年会deチャリティ大作戦in大津（2019年12月）

大津駅～浜大津駅周辺の飲食店7店舗の協力を得て、対象ドリンク1杯につき20円をチャリティするイベントを1ヶ月開催しました。新聞やラジオなどのメディアに取り上げられたこともあり、協力店や参加者に好評を得ました。

④チャリティ弦楽器のサロン（2020年2月2日）

ヴァイオリンとヴィオラの弦楽デュオSOLAの協力を得て、チャリティコンサートを開催しました。第一部はG線上のアリアなどの静かな曲、第二部はタンゴを集めたプログラムで、来場者からは好評を得ました。

京都新聞に取り上げられた忘年会deチャリティ大作戦in大津（左上）と弦楽器によるチャリティコンサート（右下）

参加者の声など

SDGsフェスタ・びわ湖チャリティウォーク&クルーズ

・快晴で歩いていて本当に気持ちよかった。スタージや体験が楽しめて子どもたちも喜んでいた（参加した親子）。

・なかなか自分たちの活動を知ってもらう機会がないので良い機会になった。自分と同じく子どもの支援をしている団体など繋がりもできた（参加団体）。

忘年会deチャリティ大作戦in大津

・いつもお世話になっているので地域に恩返しできると参加した。お客様は「店の前のノボリはなに？」などの話をしてきてチャリティについて知ってもらっている（協力店主）。

チャリティ弦楽器のサロン

・弦楽器の二重奏、聞き馴染みのある曲やタンゴなどの選曲も素晴らしく、聞き入りました。

協賛・協力と収支

3.協賛・協力

広告協賛、物品協賛、労務協賛において多くのご協力を賜りました。企業や店舗等からは28事業所より協賛をいただきました。市民公益活動からは、31団体より協賛や協力をいただきました。

4.収支

収入の部：206,000円（広告協賛）

支出の部：511,344円

182,979円（チラシ作成）
49,500円（FMおおつ）
22,803円（ノボリ作成）
53,684円（通信費）
16.370円（ボランティア等交通費）

5.寄付金

263,445円（2020年2月10日時点/目標金額20万円）

SDGs子ども絵画コンクールの審査会

びわ湖チャリティウォーク&クルーズのウォーキングサポート

SDGsフェスタでのKids体操教室の指導

SDGsフェスタや忘年会deチャリティ大作戦in大津で目印のノボリ

本プロジェクトの事後評価アンケート

本事業に参加・協賛頂いた市民公益活動団体、企業、行政を対象に事後評価を実施しました。市民公益活動団体からは 17、企業からは 12、大学からは１団体より回答を得ました。

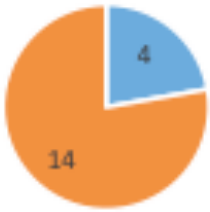
１．団体・組織の種別と地域貢献等の取り組み状況

（１）市民公益活動団体・大学の活動状況

本調査に回答した 18 の市民公益活動団体および大学の活動の状況について連携の経験から見ると、市民活動団体との連携は 12 団体があると回答した反面、大学や企業との連携はそれぞれ 4、6 団体と少ない。この傾向は昨年度の結果とあまり変化はなく、異なる事業種との連携の機会が少ないことが推察される。

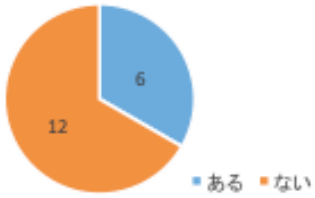
本事業（大津・SDGs くるくるチャリティプロジェクト 2019）以外に SDGs に取り組んだことのある団体は 6 団体で昨年度の調査の１団体から増加している。

2019 年度に市民公益活動団体と連携した事業の有無



2019 年度に大学と連携した事業の有無

2019 年度に企業と連携した事業の有無

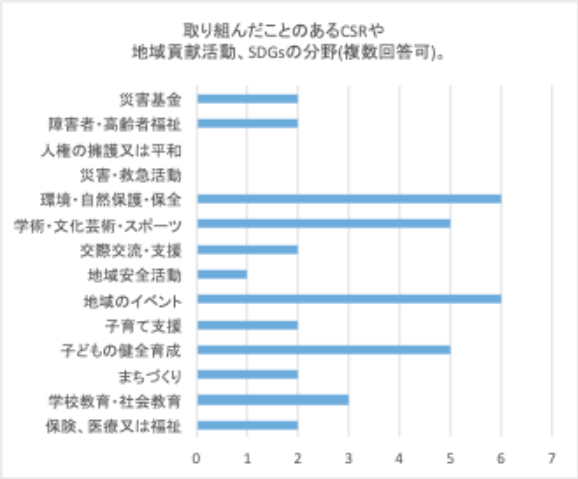


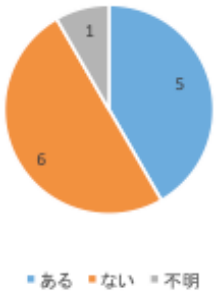
本プロジェクト以外に SDGs をテーマにした活動の有無

（２）企業の事業分野、SDGs や地域貢献等への取り組み

本調査に回答した 12 の企業が、これまで取り組んだ SDGs や CSR、地域貢献活動の分野を見ると、「環境・自然保護・保全」「地域のイベント」が６事業所で多い。

本事業以外に今年度 SDGs に取り組んだ企業は５事業所で、昨年度の２事業所よりも増加している。





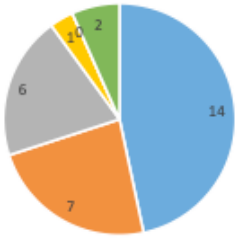
本プロジェクト以外に SDGs をテーマにした活動の有無

２.「大津・SDGs くるくるチャリティプロジェクト 2019」への評価

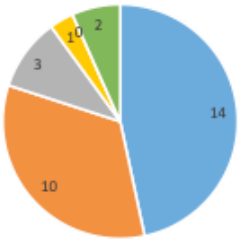
（１）プロジェクトの構成やプログラムへの評価

今年度の新しい取り組みであるチャリティの成果について、「①四者協働によりチャリティに取り組んだ」「②チャリティの寄付先として『貧困家庭の子どもや貧困世帯』を支援する団体」を設定した」「③チャリティの目標額を達成した」「④SDGs のテーマとして『目標 12-つくる責任・つかう責任』を選んだ」「⑤啓発事業（子ども絵画コンクール、チャリティ BOX SHOP、ポスター展、ラジオなどの情報発信）に取り組んだ」「⑥人材育成事業（講座「SDGs と国際貢献」、フォーラム「社会全体で考えるツクルとツカウ」）に取り組んだ」「⑦交流事業（SDGs フェスタ、びわ湖チャリティウォーク&クルーズ、忘年会 de チャリティ in 大津、チャリティ弦楽器のサロン）に取り組んだ」の項目で尋ねたところ、すべての項目について 70%以上の団体が、「大いに評価する」「まあ評価する」と回答した。特に「②チャリティの寄付先として『貧困家庭の子どもや貧困世帯』を支援する団体」を設定した」では 24 団体（80%）が肯定的な認識を示した。

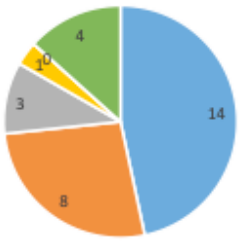
自由記述では、【参加してよかった・成果があった】【テーマを「つくる責任・つかう責任」に絞ってよかった】【活動を継続して欲しい】といった声があった。一方【広報をもっと充実・効果的にできるのではないか】【SDGs をもっと強調するべきではないか】といった提言も寄せられた。



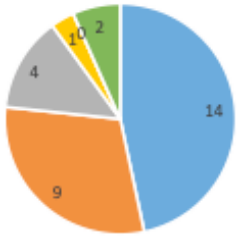
①四者協働によりチャリティに取り組んだ。



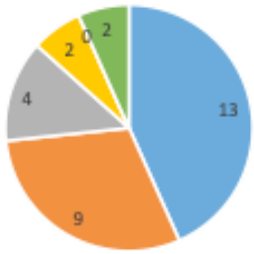
②チャリティの寄付先として「貧困家庭の子どもや貧困世帯を支援する団体」を設定した。



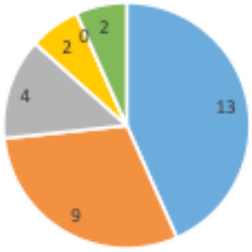
③チャリティの目標額を達成した。



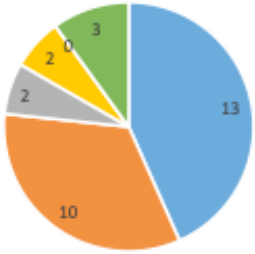
④SDGs のテーマとして「目標 12：つくる責任・つかう責任」を選んだ。



⑤啓発事業（子ども絵画コンクール、チャリティ BOX SHOP、ポスター展、ラジオなどの情報発信）に取り組んだ。



⑥人材育成事業（講座「SDGs と国際貢献」、フォーラム「社会全体で考えるツクルとツカウ」）に取り組んだ。



⑦交流事業（SDGs フェスタ、びわ湖チャリティウォーク&クルーズ、忘年会 de チャリティ in 大津、チャリティ弦楽器のサロン）に取り組んだ。

＜自由記述等＞

【参加してよかった・成果があった】

- チャリティウォーク&クルーズに協力したが、ウォーキングの人たちは喜んで参加してもらった。
- 本業でも市民対価を語ることができて大変有意義です。引き続きお願いします。
- 様々なかたちのイベントが開催され、SDGs について知る機会が多く素晴らしいと考えます。
- 一団体ではできないことに、参加できる事はありがたいです。視野の狭い活動になりがちなので、大きなテーマへの参加は団体であることの意義説明にもなり助かります。
- 目標、取り組み、そして達成されたことが良かった。
- SDGs フェスタブースの参加で、来場者の方々とのコミュニケーションが十分取れて和気あいあいとした雰囲気を味わえた。
- このイベントをきっかけに「SDGs」ということばを知りました。社会的な周知に大きな役割を担って頂いたと思います。

【広報をもっと充実・効果的にできるのではないか】

- こちらの関心の向け方にも問題があったかと思いますが事業内容や成果についての周知をもっとしても良かったと思う。
- 充実した内容の割に一般市民があまり知らなかった。記者会見などメディアを利用した広報努力が必要かもしれない
- 事業の成果は大いに評価しますが、記入者が大津市在住ではないためかせっかくの活動や成果の情報がなかなか入ってきません。大津市でも周辺地域にはSDGsの取り組み自体が浸透してないようにも感じます。

【テーマを「つくる責任・つかう責任」に絞ってよかった】
- 多岐に渡るイベントをされていて、多様な関心層を惹き込む取り組みがされていると感じた。特に絵画コンクールでの子ども、忘年会での大人、ウォーク＆クルーズで家族に対してアプローチでき、誰もが興味を持てるイベントにつながっていることが評価できる。SDGsのテーマを絞ったことでわかりやすさも上がったと思う。テーマの中での広がりをもっと持たせることで参加者や見学者の理解をもっと深められたかもしれないと思う。
- テーマをひとつに絞ったことで、其のテーマを深堀する展開がなされた。入り口は目標１２だが、参加者には他の目標の達成にも繋がることを感じてもらえたのではないか。

【SDGsをもっと強調するべきではないか】
- どの取組みも素晴らしいが、今年度はチャリティの側面が非常に強く、SDGsとしてはやや弱い部分があったと感じた。そのことが事業としての継続性にも関わってくるように思う。
- 活動をより多様にすることもできたように思う。
- SDGs というよりは通常の地域フェスのイメージでした。もっと SDGs とは？のパネル展示やSDGsについて話せる方の講演や実践団体の講演など目に見えた取り組みをフェスタでは発信して欲しいです。

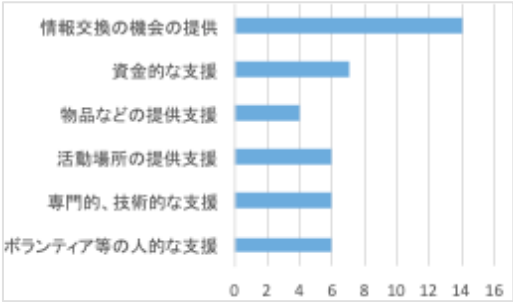
【活動を継続して欲しい】
- 一番、大事な政治（とりわけ「平和」のテーマ）を考え、話し合う場があればと思う。政治が劣化している今、みんなで考える事がそれぞれに繋がっている取り組みだと思う。
- 引き続き推進して欲しい。

【その他】
- はじめてのフェスタの参加で、調理場所がないなどの制約もあってなかなか大変でした。
- 実施された事についてのイベントは大盛況だったと思います。身近でできる事ならば次回も大いにと思っていますが、資材を運ぶ事の大変さを感じました。

3．今後の四者（市民、行政、企業、大学）協働の方向性

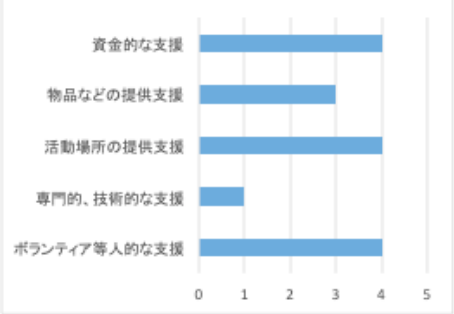
（１）市民公益活動団体および大学が、今後、四者協働（市民、行政、企業、大学との連携）により活動を展開するにあたって取り組みが必要だと認識する項目（複数回答）

本調査に協力した市民公益活動団体および大学は、四者協働により活動を展開するに当たって必要だと思われる項目として、「情報交換の機会の提供」をあげる団体が 14 団体と最も多い。「資金的な支援」が７団体、「活動場所の提供」「専門的、技術的な支援」「ボランティア等の人的な支援」はそれぞれ６団体が必要と指摘している。



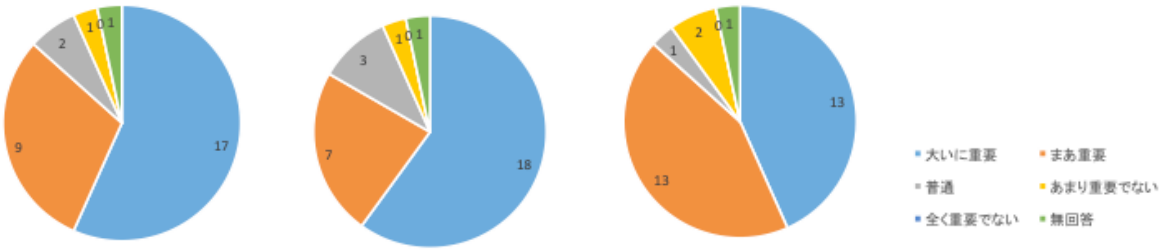
（２）企業が、今後、四者協働（市民、行政、企業、大学との連携）により活動を展開するにあたって、参加したいと思う項目（３つまで）

本調査に協力した企業は、四者協働により活動を展開するに当たって必要だと思われる項目として、「資金的な支援」「活動場所の提供支援」「ボランティア等人的な支援」にそれぞれ４事業所が指摘している。

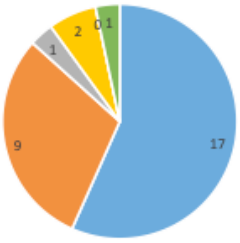


（３）四者協働による地域貢献活動に参加する上で重要だと思われる項目（複数回答）

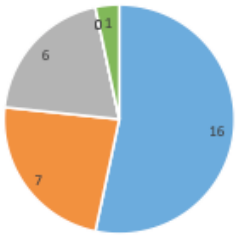
本調査に協力した団体は、四者協働による地域貢献に参加する上で重要な項目として「①地域貢献活動の団体側の受け入れ体制」「②協働にあたってのコーディネート体制」「③協働による地域貢献活動の成果の数値化、社会的インパクトの評価」「④協働での地域貢献活動による団体の活動の周知（広報の効果）」「⑤協働による団体の人材育成の効果」について尋ねたところ、すべての項目について 75%以上の団体が「大いに重要」「まあ重要」と認識していた。特に「②協働にあたってのコーディネート体制」は 18 団体（60%）が「大いに重要」と認識している。



①地域貢献活動の団体側の受け入れ体制　②協働にあたってのコーディネート体制　③協働による地域貢献活動の成果の数値化、社会的インパクトの評価



④協働での地域貢献活動による団体の活動の周知（広報の効果）



⑤協働による団体の人材育成の効果

【啓発活動が重要】

① 「一人も取り残さない」という SDGs の理念はまだまだ理解されていないと思う。参加する団体の活動の理念と結びながら、その理念の実現に向けての啓発がこれからも必要だと思う。

【継続的な取り組みに展開して欲しい・SDGs や地域貢献をより強調して欲しい】

② 地域貢献活動が続けられる（持続可能にする）ための活動計画を立てることが大切だと思う。

③ イノベーションによる地域貢献活動は、非常に社会的にも関心が高く、メディアの注目も集まることが予測される。それ故に、SDGs を掲げて行う場合は、「SDGs ウオッシュ」にならないよう注意が必要になる。お互いに提供者と参加者となるのではなく、共に主体的な意識で活動できるかどうかは弊社としても一番の課題である。

④ 大津市民活動センターでは、このプロジェクトに関わらず、地域貢献を根幹に活動している。関係者各位が地域に根差しており、共通の課題に挑み、解決へ導く、ということが地方再生の一歩にもなると思いますので、全てが大津へ繋がるようにすると大津市の企業として参加の意義があると考える。

【今後も連携したい】

⑤ 年々SDGs に対する取り組みに力を入れています。2020 年度も組織として、また個人としてもお手伝いできることは多いと思いますので、是非ご活用ください。

⑥ 連携を深めてもらえれば有難いです。

（３）四者協働による地域社会貢献活動の推進における大津市市民活動センターに期待する役割（自由記述）

中間支援として求められる機能としては「コーディネート機能」が多く挙げられている。

【コーディネート機能】

① SDGs に対する認知度は上がってきていますが、具体的な内容に対してはまだイメージできないことが多く、どのように取り組めばよいかわからないという人が多い。また単独でそれぞれに活動している団体・企業も少なくないと思うので、地域に根差したセンター側からそれらの方々をつなぐことがとても重要だと思う。

② 私たち NPO は特に企業との連携が難しい。そこをつなげていただくきっかけを期待している。

③ 活動内容をアピールできる場（時間）や交流の場が欲しいのですが橋渡しをして頂けると嬉しい。

④ 四者にはそれぞれの立場の論理があり、価値感や倫理観が異なる場合がある。地域社会貢献活動は夫々の論理を超えた新たな価値の創造活動だと思う。市民活動センターは価値を創造するプロデューサーの役割を期待したい。

⑤ いつも本当にありがとうございます。さまざまな場面で繋がりを作っていただき心強い。

⑥ コーディネート機能を充実させて欲しい。

⑦ 企業や行政と市民や学校を繋ぐ存在として、また四者のどの位置でもない観点はとても重要に感じる。更に、其の支援が問題に対して根本解決になっているのか（支援が元で他の問題を助長していないか）、継続的に行うことができる事業になり得るのか、を客観視いただきたい。

【市政への提言】

⑧ 中間支援組織として貴センターにも市政に提言していくことを希望する。

【県内など他地域との連携・啓発】

⑨ SDGs を普及させるための取り組みはとても良いと思う。大津市だけでなく、他の自治体にも広がっていくように望んでいるので、もう少し広範囲で広報にも力を入れていただきたい。

謝辞

弊所は 2018 年度より、SDGs をテーマに四者協働で啓発、人材育成、交流事業に取り組んでまいりました。2019 年度の「大津・SDGs くるくるチャリティプロジェクト 2019」では、チャリティにも取り組み、多くの市民公益活動団体、企業、大学、行政の皆さまにご協賛・ご参加賜りました。運営にあたりましては不慣れなことも多く、協賛いただいた皆さまからの温かいご支援をいただき、ご参加いただいた市民の皆さまから「参加して良かった」などの言葉を頂戴できたことが励みとなりました。最終的には目標金額を達成することができて、ようやく弊所スタッフも安堵いたしました。改めて深く感謝申し上げます。

本書でご報告しました通り、SDGs の目標年 2030 年まで 10 年となり、四者協働によるまちづくりはますます必要となってきております。弊所も四者協働の拠点として機能するよう微力ながらさらに取り組んでいく所存です。

2020 年度はコロナウイルスの感染拡大の影響もございますが、さらに内容を充実させてまいります。引き続きご指導ご鞭撻賜りますよう、お願い申し上げます。

2020 年 8 月

大津市市民活動センター

プロジェクト主催・報告書発行
大津市市民活動センター
〒520-0047
大津市浜大津 4-1-1 明日都浜大津 1 階
TEL:077-527-8661　FAX:077-527-8662
Email:moveinfo@movementotsu.com
HP: http://movementotsu.com